

土佐清水市地域公共交通協議会 第3回総会 会議録（要約）

日 時：平成23年3月22日（火） 13時05分～13時52分

場 所：市役所2階 第1会議室

出席者：土佐清水市長 杉村章生、あしずりハイヤー代表取締役社長 鈴木憲二、足摺交通ハイヤー代表取締役社長 田村有三、竜串見残観光ハイヤー代表取締役 西村公一、高知西南交通㈱代表取締役社長代理 岡本正雄総務部長、高知県幡多土木事務所土佐清水事務所長 近澤俊明、土佐清水市まちづくり対策課長 木下司、清水警察署長代理 交通課長 吉本 泰史、高知県公共交通課長代理 宗光広展主幹、高知県幡多土木事務所土佐清水事務所工務課長 笹岡吉市、土佐清水市企画広報室長 脇谷浩正、土佐清水市観光課長代理 小松高志補佐、土佐清水市水産商工課長 山下毅、土佐清水市福祉事務所長 二宮真弓、

事務局：企画広報室長補佐 岡田敦浩、企画係長 金子久恵

会議次第：1. 開会

2. 市長（会長）挨拶

3. 議題

（1）平成22年度計画事業について

①事業実績（見込み）について

②事後評価について

（2）平成23年度計画事業について

（3）その他

4. 閉会

会議概要（要約）

1. 開 会

（省略）

2. 市長（会長）あいさつ

（省略）

3. 議 題

（事務局 岡田）

資料 P3～7 説明

（1）平成22年度事業実施状況について

①事業実績見込みについて

22年度事業のうち国庫補助事業の域内観光周遊バス実証事業は、同時期に幡多広域観光協議会が中村駅発の同様事業を展開するので、昨年度の本事業の実施実績からしても利用者の伸びは見込めないということで、7月の総会で報告・承認済み。

ア. 総会・幹事会開催状況

イ. 通勤通学帰宅便バス実証運行（国庫補助事業）

H21.10月より事業開始、21年度3路線で0.65人/1日で利用者数が少なかった。本年度に向けて広報等での周知、市職員によるノーカーデーの4月からの実施も行ったところであるが、昨年度よりも0.88人/1日と利用者は若干の伸びに止まった。費用対効果はH21が28,487円/1人、H22が15,743円/1人。運輸局の検査時にも事業中止の指導も受けており、7月の総会時に事業中止の承認を受けており、H22.12月末をもって事業を中止した。

ウ. タクシー割引助成事業（補助対象外事業：市単独事業）

公共交通空白地域（4地区）で昨年度国庫対象事業で実施した、ジャンボタクシーを利用した地域か

ら国道幹線バス停までのフィーダー輸送事業の代替策として、本年度市単事業として実施している。タクシー代の2/3を助成。対象者は4地区で90名で登録者はこのうち31名。運行形態が違うので一概に比較はできないがH21が65,188円/1人、H22が1,067円/1人。

エ. 高齢者運転免許返納支援事業（補助対象外事業：市単独事業）

平成17年度より土佐清水市高齢者交通安全推進協議会が免許を返納された高齢者に、返納時に2000円分の商品券の交付とか、西南交通さんの協力で免許返納サポート定期やハイヤー運賃の10%割引、サポート店の商品の10%割引というような制度を実施している。今年度よりこれに上乗せをして市でタクシーの利用券4800円分、免許返納サポート店での商品券3600円分、計8400円分を上乗せする事業を実施している。

事業者は、タクシー5事業者、返納サポート店（中央商店街15店舗、この6月から理容所23店舗）加入してくれ、38店舗となっている。

この制度は本市の返納者がH22年中で県下76人中本市40人で52.6%となっており、交通事故の防止にも大きく寄与しており死亡事故0日1,218日にもつながっていると思われる。

オ. 市役所職員によるノーカーデーの実施について

市役所の職員が率先して、バスの利用を進めていこうと意気込みで平成22年4月から毎月20日をノーカーデーとして通勤にバスを利用する取組みを実施している。

利用人数は、4月～3月で222名、月平均18.5人。

②100円刻み運賃の導入について

廃止路線代替バス路線有永・清水線で、住民の公平を保つために22年10月より実施した。21年10月より高知西南交通運行路線の100円刻みにあわせて実施すべきところであったが未実施となっていた。

③平成21年度国庫補助金の返還について

平成21年度国庫補助事業の通勤通学帰宅便実証運行実施額が、実績報告時とバス事業決算時のタイムラグがあるため3,000円減額となった。四国運輸局と返還手続きの協議を行い事務をすすめ、事業費額の2分の1の1,500円を納付した。

また、国よりの返還通知を受け高知西南交通株から3,000円の返納を受けた。

収支決算見込みは歳入3,289,225円、歳出3,212,963円で76,262円次年度繰越見込み。

(2) 事後評価について

事後評価は「地域公共交通活性化・再生総合事業」において、実施協議会自らが事業を総括し、運輸局でそれについての二次評価を受け、翌年度以降の事業に反映させることとされている。

評価については協議会構成員の意思を反映させるため、総会の開催が望ましいという事であるが、時間的に困難であったため各委員に送付させていただいた。内容は別紙本協議会の概要を文章化したものである。

運輸局よりの指摘や是正勧告は特になかった。

(市長)

22年度事業全体として、意見・質問なりのないか。

(角田連合区長会長)

私は通勤通学帰宅便事業について最初からあまり効果が無いのではと考えていた。やってみて効果が無く中止となったのだが、それによって余った事業費を中学生の雨天時の通学事業とかに振り替えて実施ができないものかと考える。

(脇谷室長)

そもそも、国の事業を取り入れて実証運行等を進めて行く連携計画を作成する時に、アンケート等を元

にしてしたところ、通学通勤帰宅便等は非常に要望が高かったので、国交省事業として取り入れて行こうと実験したところ、結果はどうも芳しくなかったというようなことも一つある。

もう一つは21年度にこれを取り入れた時は国としても、うちの法定協議会の事業について許可がおりたのだが、22年度に事業費が落とされた、うちの方には8割カットするがどうするかと話しが来た。通常であればそのような落とされ方をしたら止めるのが普通のような状況の中で、なおもう少し通勤通学帰宅便の運行期間を12月末まで見ていこうというのが去年の第2回総会で決まって、継続実証したがそれでも効果がないと。

もう一つ観光周遊バス、これも国庫事業取り入れてやろうとしたものの、幡多広域観光協議会でやっていくという所があって、同様事業を土佐清水市でもやるとなると、重複するようになるので国の方よりの指導もあり適当な事業では無いとなった。

角田委員の意見はもう少し他に実行すべき事があるのではないかと聞いてきたのだが、なかなか今の国交事業はお金そのものがかかり削減されている。

この近辺では幡多地域の高知西南地域公共交通協議会が認められて継続はしているが、単独でしている本市は、落とされた時点で8割までカットされたのでその時点で厳しくなってきた。

しかしながら何故今この法定協議会を継続するのかというと、市の単独事業としての取り組んでいるものもあるので、わざわざ立ち上げた法定協議会をやめるといようななかなかならないだろうと。この会で今意見を色々と挙げてもらえればと。ただ国庫の事業は今後少し厳しいと思う。

(角田連合区長会長)

これはあくまで実証事業で、バス料金を安くするとかというような目的ではないと言うふうに聞こえたが、実施して効果が少ないので止めた。それを中学生の通学補助に回すとかいうふうには出来ないわけか？

(事務局 岡田)

角田委員の言われた中学生の補助などは国庫の対象にはならないので、そのような転換は無理である。あくまでこの事業は実証事業で、色々な事を試してみる事業であるので。

それと政権が民主党に変わり、事業仕分けで実はこの事業も事業仕分けにかかっている。22年度で原則廃止し23年度で新たな地域公共交通確保維持改善事業に切り替わっている。ただその中で3年間活性化再生計画をやっている所があるので、40億の予算を国の方も活性化再生事業に残すということで、幡多広域で取り組んでやっている高知西南地域公共交通協議会には、鉄道とバスと両方兼ねてやっている、くろ鉄の部分と西南交通が運行しているバスの部分と。そういう所は来年度もこの事業を活用して、事業を組み直しやっていくことになっているが、うちの方については国交省の方とも話しをしたけども、対象になる事業が無いというようなことで、23年度は国庫事業は中止という事になっている。

(角田連合区長会長)

23年度はこの公共交通について我々がしている事業は無くなったということかね。

(事務局 岡田)

国庫事業の国費を活用した事業はできない。

(角田連合区長会長)

では中学生など補助する通学の事業は出来ないわけですね。

(事務局 岡田)

元々その事業は国の事業としては無いので、中学生の補助という考え方は。

(角田連合区長会長)

市単独ですとか。

(脇谷室長)

やるとしたら市の単独ですという事になる。教育委員会の方とも検討はしてみる。

(角田連合区長会長)

もう一つ、デマントバスを運行しようというのではないのか。どうゆう風に運行しようとかは考えているか。

(協谷室長)

デマントバスは四万十市独自の取り組み。数字の方はもらってないが四万十市としてもなかなか苦慮しているようだ。一つには費用対効果として非常に、行政負担がかかるという風には聞いている。うちとしても検討はしたが、費用対効果というものがどうしても、財政状況などの事も考えてしなければいけないわけであり、経費を考えずにやるわけにもいかないので。

うちとして今どのようにしていくかと考えた時に、バスが走っていない地域、いわゆる空白地域、そこをなんとか考えていこうというのがうちの取り組みである。タクシーの割引助成事業とか先ほど説明したが、横道、横峰、鳥淵、藤の川。それから下ノ加江方面も布から立石間、下ノ加江から家路川間とかも投げかけもしたが、結局地元の方から必要ないということで、今実際している分の横道から西の方の空白地域をなんとかしようと言うことでフィーダー輸送方式でバス停までの輸送を実施している。

いずれにせよデマント形式は便利そうに見えるけども、便利ということはそれなりにお金が必要になる。四万十市の担当に話しを聞いてみても、費用対効果の面から継続していいのかという疑問は感じているようだ。

(事務局 岡田)

ただその中でデマントをやると、通常の路線バスのお客さんが少なくなってしまうと。うちからだ和西回りで宿毛、東回りは四万十市まで運行している。その利用者が少なくなると国庫や県の財政支援を受けられなくなるという恐れがある。特に西回りがギリギリの所という事を聞いている。西の方の人が宿毛の方に行きたい場合にも直接利用出来なくなってしまうと。

デマントバス運行で路線バスのお客さんを奪ってしまうというような所もあるので、デマンドがいいかどうかの論議は慎重に重ねていかなければならないと考えている。

(市長)

他に質問・意見ないか。

ないようであればまた後ほど事業計画で意見がでるかもしれないが、22年度の事業実績（見込み）及び事業評価について一括して承認お願いしたいと思う。

(異議なし)

どうもありがとうございます。

それでは引き続き23年度の事業計画について提案察させていただきます。

(2) 平成23年度計画事業について

(事務局 岡田)

資料P11~13 説明

- ・先ほど説明をしているが国庫事業は実施事業は無し。
- ・市の単独事業としてタクシー割引の助成と、高齢者の運転免許の返納を継続していく。
- ・総会幹事会は、土佐清水市地域公共交通協議会というのは法定協議会であり、今後どうゆう施策をな国の方が打ち出してくるかは分からないが、総合計画も21年から30年の10カ年の計画を立てており、協議会自体は存続をさせていきたいと考えている。先ほども説明したが、国庫事業では、昨年22年度まで実施してきた再生活性化事業というのは基本的には廃止になる。後継事業として、地域交通公共各府維持改善事業ということが国交省から来ている。この事業の内容は、陸上交通と離島航路、バリアの解消事業との3本立て。

陸上交通に関しては、地域間の幹線確保維持事業ということで、これは県の協議会で広域的部分で取り組んでいくとなっている。市町村については、地域内フィーダー系統確保維持事業がうちの実施している、空白地域が該当しないかと運輸局の方に問い合わせたが、新規のみの募集でうちが既に実施している分には該当にならないとの返事であった。

現在の所これという国庫事業、補助事業は無いという状況。

- ・以下のタクシー助成、高齢者免許返納、ノーカーデーは継続事業として協議会事業ということで、続け

ていきたいとゆうふうを考えている。

- ・23年度の予算案であるが、運営費、事業費、予備費ということで予定をしている。運営費の方は会議費と、事務費ということで9万9千円。事業費は免許の返納支援、空白地域のタクシー助制をこれは今年度の決算見込みを元に算定している。歳入は負担金、これは全額市費の負担。諸収入の方で預金利息と22年よりの繰越金を計上し、歳入歳出96万9千円。市の負担金については、3月市議会へも23年度予算ということで提案し、議会の承認も頂いており、確保は出来ている。

(市長)

以上新年度の事業計画並びに予算案についてご提案させていただいた。意見・質問を受けたい。なにかないか。

市職員のノーカーデーの取組みについて、月平均で18人との報告が先ほどあった、市議会の審議でこの件が出て、もう少し抜本的にやったらどうかと。ただ任意の取組みでやっているものであり、一挙に強権でもって革命的にはできない部分はあるノーカーデーを月1回ではなくて、10日に1回にするなど、すこし知恵を出しながら、一步一步前進する様にしたいという風に考えている。

幡多地域公共交通の会でも大月の市民代表の方から、特に市町村の公務員は強制的に公共交通を利用するように首長が言ってやれと意見があるが、なかなか難しい部分があった……。申し訳ないのが本市の場合、高知出張は公用車なのだが、四万十、宿毛の市長は自分が率先で列車で行っている。列車の沿線市町村なら可能であるが、一方では財政負担が莫大になり、うちの場合は沿線に無いと同時に、予算が増えますのでやむなく公用車で相乗りで行くということをやっている。

住民の要求がそうゆうところを思い切ってやれと言うのであれば、多少旅費を増やしてもバスや鉄道を利用するように、職員の理解も得ながら徐々に進めていきたいと思う。

それから高齢者の免許返納率については、本市が飛び抜けていいようで自慢すべきかなと思う。事故の無いことが第1番。2つ目は返納する事によってお互いに安心な社会につながる。でもその裏返しとしては不便性は増すので、返納を求めるだけではなくてメリットも無ければいけないと思う。少々市負担が増えてももう少し返す事の意味、メリットがある事も積極的に考えて行きたい。

(交通課長)

免許の返納の事で、今年状況を報告させてもらう。

去年の状況については年間40名、23年は今日までで13人の方が免許を返納している。昨年を上回る状況である。内訳は男性が8名、女性が5名で平均年齢は76.4歳ということになっている。清水の方は免許の保有者自身が60歳の方の免許の人口が3000人と一番多いが、この年代の方が後10年もすれば70代になってもっと返納する数が増えるという状況になっている。

今回の総会の資料最後を見て頂きますと空っぽのバス廃止の新聞記事がついているが、利用者が少ないからといってバスをやめてしまったら今後大変な事になると思うので、予算の都合もあるかと思うが、その返納支援としてこれから先見据えて活性化していった方がいいという風に思う。

事故の発生状況で一番多いのは朝の7時、8時、夜の7時となっている。通勤通学の時間帯に公共交通に乗ってもらえれば、もう少し事故は減ると思うのでその点でも事故防止に路線バスなんかは役に立つと思う。

(市長)

他に何かご意見はないか。

(県宗光主幹)

先ほど事務局より市の職員のノーカーデーの取組みの報告があったが、県の方でも今年の11月から5、2、0運動といって、5日と20日の日には公共交通を使って通勤をしようという風に、まず県民の皆様と呼びかける前に県の職員が率先していこうということで、県の本庁舎と西庁舎で県の本庁の近

くにある、比較的通勤のしやすい所にある職員からしようということ呼びかけて実施している。先ほど市長から話あったように強制というのは難しい所があり、参加率は厳しい数値になっているが、県民の方に呼びかける以上は県の職員がしなくてどうすると叱りを受けており、まずは県の職員が率先して取り組みをはじめている。20日以外にもという事であれば5・2・0運動という5日と20日と交通という言葉を掛けて覚えやすい工夫をしている。まずは県の職員一定に広まりましたら市町村の職員の方や、関係機関の方に声掛けをという事で行っている。またCO2削減も引っ掛けている。

(脇谷室長)

参加状況はどんなものか？

(県宗光主幹)

やはり厳しいのは厳しい。日を限定しているなのでその日に乗るという事は難しいのだが、その日に乗れなくても出張とか色々な用務の時に、月に2日は別の日でもいいので乗ろうと。別の日に乗った方も含めて1ヶ月で集計すると5割以上は参加していることになっている。元々徒歩とか自転車とかで通勤している職員は通勤方法をわざわざ変えてという事にはならないのだが、バイクとか自家用車で通勤している者については通勤方法を変えてもとなれば5割以上の数字にはなっているのだが、もっと対象となる職員全員が乗ってくれるというのを目指して取り組んでいる。

(市長)

別の日に振り替えてと言うのはいいですね。いろいろ都合のあろうしね。

(県宗光主幹)

強制は出来ないので協力と言うことで、特に金曜日なんかだと飲み会に合わせれるとか。

(市長)

わかりました。参考にまた検討してみます。

(脇谷室長)

うちの20日というのは交通安全の日に合わせている。土日祝祭日に重なったら後にずらしている。ずらしてでも、協力するような事をまた職員に協力依頼をせないかんかなと。

(市長)

バスに乗った時にスタンプか何か証明するものがあれば、例えば市が次からバス乗る時は3割引で証明書発行してうちからバス会社に3割分払うとかもう少しひと味プラス面があったら乗ってみようという気になると思いますね。

(県宗光主幹)

高知市の方にICカードの「ですか」というのが普及しており、そのカードは20日は1割引に初めから設定されていて、20日はそれを使えば1割引になる。ただICカードは導入に経費がかかるのでなかなかすぐに導入とはならないが、そういうものをいければ割引などやりやすくなる。

(脇谷室長)

うちは100円刻みの運賃を導入して乗りやすくはしている。正規でいくと190円でも100円の運賃で乗れるという。

(岡本西南交通総務部長)

それと75%引き定期を販売している。清水小の児童が使っている。免許返納定期も清水のだけが活用している。

(交通課長)

JRバスが香美市の方で免許返納サポートの関係でバス運賃が半額ということをやっていると先月の高知新聞に出ていたが、清水ではやっていないのか？

(岡本西南交通総務部長)

幡多地域の高知西南地域公共交通協議会の取り組み中で、免許返納いきいきサポート定期があるが、あまり活用されてないみたいだ。免許返納サポート定期は清水以外はない。ただ、当初1年目は1ヶ月5千円で西南交通どこでも乗れる、2年目が1万円で、3年目からちょっと上がっていたが、23年度の事

業では3年目からも2年目の額で実施しませんかという提案をするつもりです。いずれにせよ、利用者は土佐清水の住民の方が殆ど。

(交通課長)

前もって定期を買うというと、まとまったお金がいるわけで、JR四国バスみたいに、利用した時に半額にしたらもっと利用者が増えるのではないかな？

(岡本西南交通総務部長)

高知西南地域公共交通協議会の取組み中では免許返納いきいきサポート定期ということで取り組んでいる。ただ十分に周知されていないのであまり利用者が現れない。また期限付きでやっているの、1年間だったら免許返納したくないというのはあるかもしれない。その辺が検討課題かもしれません。

(市長)

それは法的には1年とか3年とか期限があるものかな？

(岡本西南交通総務部長)

幡多の協議会がOKだせばいいんじゃないですかね？

(交通課長)

とくに、香美市の例とか、この近くでいうと宇和島自動車が宿毛までバスを運行しているが、同様に期間は決めず会社の方の運賃を設定をして半額にするという取り組みをしている。それぞれ事業者の事情はあろうが、宇和島自動車の担当の方が言われていたのが、現在ほとんど高齢免許持っている方は使ってくれていないと。その方が免許を返納して半額にしたとしても会社としては減収にならない可能性も高いという判断でやっているようだ。

これをすぐに西南交通が同じように出来るかという、今現在の利用者の状況はどうかという事と、それによって収入が大きく減るといった事があつたら先ほど言われた、国の補助対象から外れるとかでくるので、慎重な判断が必要と思うが、会社によっては期間を定めず免許返納者については半額にするという取り組みをしているところがあるので、検討をお願いしたい。

(岡本西南交通総務部長)

そうですね。一つ懸念されるのは、免許返納した方には恩恵があるが、元々免許持っていないお年寄には恩恵がない。そういう方からすれば不公平感も出てくるんで、取扱が難しい所もある。その辺が少し慎重に取り扱わなければと考える。

(市長)

そうゆう面で不公平感がね、もう少し広く考えないかな。

(岡本西南交通総務部長)

事業者側でいえば、利用者の掘り起こしになって良いのですが、元々、正規な料金で乗っているお年寄りには少し、私らも安くして欲しいという意見も出てくると思われる。

(市長)

今出された問題がありました、事務局で十分具体的に色々検討させてもらいたいと考える。

他に特にないか？

(な し)

ないようですので、この23年度新年度の事業計画並びに予算について承認頂けたということで。

それでは最後にその他で事務局なにかないかな？

(事務局 岡田)

2点ほど報告をさせていただく。

清水から窪津、足摺岬の廃止路線バスであるが、現在4.5往復している。0.5の端数は足摺まで行って帰りは回送で走っているバスがあるという状況。これは10:20に清水を出て、11:00に足摺を折り返し清水まで回送で帰ってきている。ただこの時間帯に利用したいという声が地元の方からもあり、西南交通の方からも運行利用者希望者が多いという声を頂いており、庁内でも協議して、この時間帯が足摺を9:34に出た後は14時までのバスが無いわけで、丸々4時間半ですが、その間に1便1

1時頃のバスをという事で早い時期に5往復で運行するような運びにしたいという事で西南交通と早期の運転開始に向けて協議を行っている。

それともう1点ですが、23年度についても、協議会を継続していくとゆうことで、総会幹事会を開催する必要があるのだが、23年度の1回目については本日の承認した内容をまた協議・承認して頂くという事になるので、またわざわざ集まって頂くのもお手をかけることになるので、22年度の収入・支払が確定した後、角田区長と土木の所長に監査を受けその後、みなさまの方に書類を送付させて頂くようにさせていただくので、よろしくお願いします。

それと、この最終の14Pであるが、先ほども話題に上っていたが、幡多の地域公共交通協議会の高新一の記事。うちと同じように、実証運行ということでバスの運行していたが、やはり向こうもまだうちよりは実績人数も多いのだが、向こうもなかなか苦労していると。丁度うちの市長も協議会の委員になっており、出席して発言したという事が載っている。過疎地域のバス運行は厳しいという風なことで、ここへ参考につけらして頂いた。

以上です。

(市長)

その他でなにかないか？

(なし)

以上でこの会を閉会したい。どうも長時間にわたりありがとうございました。

～ 13:52 閉会 ～